

## 『打って反省 打たれて感謝』

広島県  
福山武道館剣道教室  
中学2年生 沖野朱里

「あー!!また負けた。なんでウチは勝てんのん!!」

試合終了。暗闇がずっと続く日々。一筋の光も差さない闇を私はさまよっていた。自分のせいでチームが負けたり、みんなに迷惑をかけていた。気が付けば、周りのみんなに追い越され、私はみんなのお荷物になって、また迷惑をかける…。でも、それは絶対に避けたい。みんなの足を引っ張るようなことはしたくない。そう思った。だから今まで以上に、真面目に稽古に取り組み、誰よりも大きな声を出し、もっとすばやく動いた。さらに、返事や挨拶もしっかりした。そして、努力はいつか報われると信じていた。しかし、報われなかった。どんなに頑張っても負ける回数は減ったが、惜しいところで負けて悔しい思いをする。それが嫌だったから、剣道をしたくない時期もあった。『どうせ試合に出たってすぐ負ける』という認識が強かった。だから、試合をすることが怖かった。

そんな時、道場の先生から

『あかりを広島県のジュニア強化選手にしたいのですが』

というメールが届いた。私はそれを見て目を疑ったが、メールに綴ってある文字を一文字ずつ、ゆっくりと確かめながら読んでいくと、やはり書いてあることは事実だった。正直私は

「えっ、なんでウチが選ばれたん？他に強い人大勢いるのに…」

と思った。しかも、福山地区からは中学生が六人しか選抜されていなくて、そのうちの一人が私だった。

選考基準を読んで、私は思った。あの時、努力していたことを私が知らない間に、先生方は見ていてくれたんだ。その努力がたまたま試合に反映されなかっただけで、報われなかったことではないことに気付いた。でも、私は不安だった。強い人がたくさんいる中で稽古するのは怖い。その時、母が

「そりゃ、人間誰でも良い時と悪い時があるんよ。大事なことは、続けること。心を折らないこと。でも折れないようにするのは難しい。その時は素振りをしっかりすること。まあ、がんばって。」

と言ってくれた。その言葉を聞いて勇気が湧いてきた。確かに最近の私の試合はずっと受けてばかりで、積極性に欠けていた。自分から打つと応じ技をされそうで、なかなか前に出ることができなかった。打とうと思っても、自分の体が動かなくて何もできないまま終わってしまうこともあった。

どうしたら勝てるのか道場の先生に尋ねた。

「勝つだけでは強くなれない。負けることも大事なんだよ。でも、勝つことが目的だから一番大事なのは努力すること。」

と、教えてくださった。

『打って反省 打たれて感謝』

打たれた人は、自分に隙があるということに気付かせてもらったから、打った人に感謝するということ。逆に打った人は、本当に正しい心で無駄なく打ち込めたか常に自己反省すること。私は今まで、そんなことを全く気にしていなかった。試合で勝った時は嬉しかったが、相手に隙があることを教えていた。負けた時は悔しかったが、自分に隙があったことを相手に教えてもらった。このことに感謝して、これからの試合に挑んでいきたい。自分を成長させるためにも努力を怠らず、強い心を持ち続け、日々の稽古に励んでいきたい。

そして…

自分らしい剣道で勝ちにってみせる！

I w i l l n o t l o s e !

I w a n n a b e s t r o n g !

『私は負けない！』